

Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3)
Linux オペレーティングシステムインストールガイド



Part No: E36244-01
2012 年 7 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X3-2B モデル名の変更	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートおよびトレーニング	6
寄稿者	7
変更履歴	7
この Linux オペレーティングシステムインストールガイドについて	9
Linux OS のインストールについて	11
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	11
OS のインストールオプション	12
Oracle System Assistant	14
OS のインストールの準備	17
インストールメディアキットのダウンロード	17
インストール方法のセットアップ	19
BIOS の設定	24
オペレーティングシステムのインストール	27
Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定	27
Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)	31
Linux OS の手動によるインストール	35
サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新	40
Linux OS の新しいバージョンへの更新	43
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	47
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	47
ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション	48
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	48
ファームウェアとソフトウェアの入手	50

アップデートのインストール	54
索引	57

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X3-2B モデル名の変更」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「サポートおよびトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X3-2B モデル名の変更

Sun Blade X3-2B の旧称は Sun Blade X3-2B です。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

新名称の意味は次のとおりです:

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 3 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を意味します。
- アルファベット B は、ブレードサーバー製品であることを意味します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール(ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

- My Oracle Support – <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、47 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください:<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートおよびトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります:

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan、Cynthia Chin-Lee。

寄稿者: Yi Cai、Kenny Tung、Salomon Chavez Velazquez、Daniel Silverman、Johnny Hui、Angela Vlahos、Anand Srinivasan、Darren Tran、Mark Stanton、Denise Silverman、Ralph Woodley、Mick Tabor

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です:

- 2012年4月。初版。
- 2012年5月。SW 1.0.1に合わせて更新。改訂版ドキュメントライブラリを再リリース。
- 2012年6月。SW 1.1に合わせて更新。プロダクトノートとサービスマニュアルを改訂。
- 2012年7月。サーバーモデル名の変更。全ドキュメントを改訂。

この Linux オペレーティングシステムインストールガイドについて

注 - 重要: Sun Blade X3-2B は以前は Sun Blade X6270 M3 サーバーモジュールという名前でした。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントの次のセクションでは、Sun Blade X3-2B にサポート対象の Linux OS をインストールする方法について説明します。

ヘッダー	ヘッダー
タスクの表とインストール手順の概要。	11 ページの「Linux OS のインストールについて」
インストールの準備およびセットアップ。	17 ページの「OS のインストールの準備」
OS のインストール手順。	27 ページの「オペレーティングシステムのインストール」

Linux OS のインストールについて

次のタスクの表を使用して、Sun Blade X3-2B に Linux のサポートされているバージョンをインストールします。

手順	説明	リンク
1	初期サーバーインストールおよびセットアップの手順を実行します。	『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』
2	サポートされているオペレーティングシステムの一覧を含め、最新のサーバーハードウェアおよびソフトウェア情報を確認します。	『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』
3	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	12 ページの「OS のインストールオプション」
4	OS のインストールプロセスでの Oracle System Assistant の役割を確認します。	14 ページの「Oracle System Assistant」
5	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	17 ページの「OS のインストールの準備」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、Linux OS のサポートされているバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します:

- [12 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」](#)
- [12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

サポートされている Linux オペレーティングシステム

Sun Blade X3-2B は、次の Linux オペレーティングシステムをサポートします:

- Oracle Linux
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

サポートされているバージョンについては、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』を参照してください。

関連情報

[12 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Sun Blade X3-2B プロダクトノート』に記載されています。プロダクトノートドキュメントには、サポートされているオペレーティングシステム、利用できるファームウェア更新、およびサーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題についての詳しい情報が記載されています。詳細については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』を参照してください。

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これらの2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html を参照してください。

オプション	説明
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします:</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりの場合は、このオプションを使用します。追加のハードウェアが必要です。 リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。 <p>注 - Oracle System Assistant は、単一のサーバーでの OS のローカルまたはリモートインストールのためのもっとも簡単な方法です。</p>

関連情報:

- [13 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)
- [14 ページの「Oracle System Assistant」](#)

単一サーバーへのインストール方法

Linux インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、Linux 配布メディア。詳細については、 14 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、Linux 配布メディア。詳細については、 14 ページの「補助付き OS インストール」 を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、Linux 配布メディア。詳細については、 14 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。

メディアの配布方法	その他の要件
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Linux 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。詳細については、 14 ページの「手動による OS インストール」 を参照してください。

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバをインストールします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があります、そのサーバーにインストールされている必要があります。

手動による OS インストール

この方法では、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux 配布メディアを提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support サイトから OS 固有およびサーバー固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

関連情報:[14 ページの「Oracle System Assistant」](#)

Oracle System Assistant

Oracle System Assistant は、x86 Sun Fire および Sun Blade サーバー用の単一サーバーシステム起動/保守ツールです。これは、Oracle の Single System Management 製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです:

- Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア

- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、サーバー内に置かれ、オンラインアップデートを使用して保守されるサーバー固有バージョンのツールとドライバとともに工場で構成されます。

関連情報:

- [15 ページの「Oracle System Assistant OS インストールタスク」](#)
- [15 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant OS インストールタスク

Oracle System Assistant OS インストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS インストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。続いて、サーバーハードウェア構成に基づいて、適切なドライバをインストールします。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムで利用できるわけではありません。ただし、サーバーでサポートされている OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エクспанダ) を更新できます。

Oracle System Assistant には、ローカルまたはリモートのどちらからでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーの側にいながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報: [15 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant は、サーバーにすでにインストールされていることもあります。サーバーに Oracle System Assistant が含まれているかどうかを判定する方法または更新および復旧手順を実行する方法の詳細については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。

関連情報: [17 ページの「OS のインストールの準備」](#)

OS のインストールの準備

このセクションの手順を使用して、OS のインストールの準備を行います。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	11 ページの「Linux OS のインストールについて」
2	OS のインストールメディアキットをダウンロードします。	17 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	<ul style="list-style-type: none">ローカルインストールの場合: 19 ページの「ローカルインストールの設定」リモートインストールの場合: 20 ページの「リモートインストールのセットアップ」
4	最適なデフォルト値をロードし、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	24 ページの「BIOS の設定」
5	OS をインストールします。	27 ページの「オペレーティングシステムのインストール」

インストールメディアキットのダウンロード

このセクションでは、Linux インストールメディアの次のダウンロード手順について説明します:

- 18 ページの「Oracle Linux メディアキットのダウンロード」
- 18 ページの「SLES メディアキットのダウンロード」
- 18 ページの「RHEL メディアキットのダウンロード」

▼ Oracle Linux メディアキットのダウンロード

- 1 Oracle Linux の場合は、Oracle e-delivery サイトにアクセスします:<http://edelivery.oracle.com/linux>
- 2 アカウントを作成します (まだ作成していない場合)。
更新された ISO イメージをダウンロードするアカウントが必要になります。
- 3 Oracle Linux を検索してダウンロードします。

次の手順 [24 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ SLES メディアキットのダウンロード

- 1 Novell アカウント情報を取得します。
ISO イメージをダウンロードする Novell アカウントが必要になります。
- 2 SUSE Linux Enterprise Server メディアキットを <http://download.novell.com> からダウンロードします。

次の手順 [24 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ RHEL メディアキットのダウンロード

- 1 企業アカウント情報を取得します。
更新された ISO イメージをダウンロードする企業アカウントが必要になります。
- 2 Red Hat Enterprise Linux Update メディアキットを <http://rhn.redhat.com> からダウンロードします。

次の手順 [24 ページの「BIOS の設定」](#)

インストール方法のセットアップ

- 19 ページの「ローカルインストールの設定」
- 20 ページの「リモートインストールのセットアップ」

▼ ローカルインストールの設定

ローカル OS インストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、Oracle System Assistant の OS のインストールタスクです。この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動(補助なし)インストールをセットアップします。

注 - ローカル OS インストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』に記載されているとおりに、サーバーのインストールを実行します。
 - 次のアイテムを入手します:
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
 - マルチポートドングルケーブル
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面の USB 接続のいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
 - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面のほかの USB ドライバに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

次の手順 17 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」

▼ リモートインストールのセットアップ

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用することです。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動(補助なし)インストールをセットアップします。

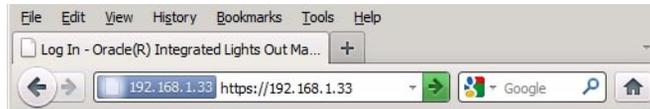
注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

始める前に 次の要件が満たされている必要があります:

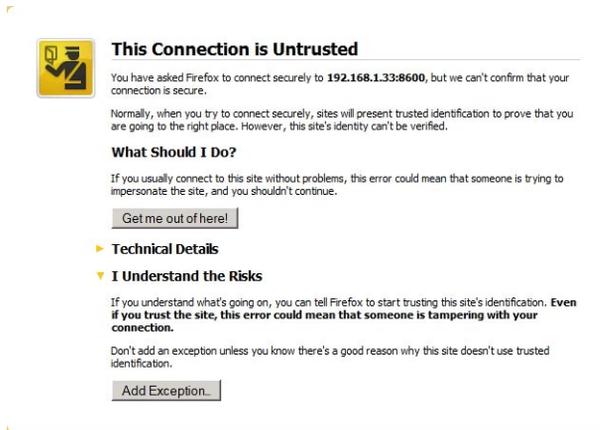
- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 設置ガイド』に記載されているとおりに、サーバーのインストールをすでに実行しているはずです。
- リモートコンソールシステムは、Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにリモートコンソールシステムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- リモートコンソールシステムが Solaris を実行している場合は、リモートコンソールが CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能が無効にします。
- サーバースerviceプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスが必要です。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバー Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

- 1 Oracle ILOM にアクセスするには、リモートコンソールシステムでブラウザにサービスプロセッサの IP アドレスを入力します。

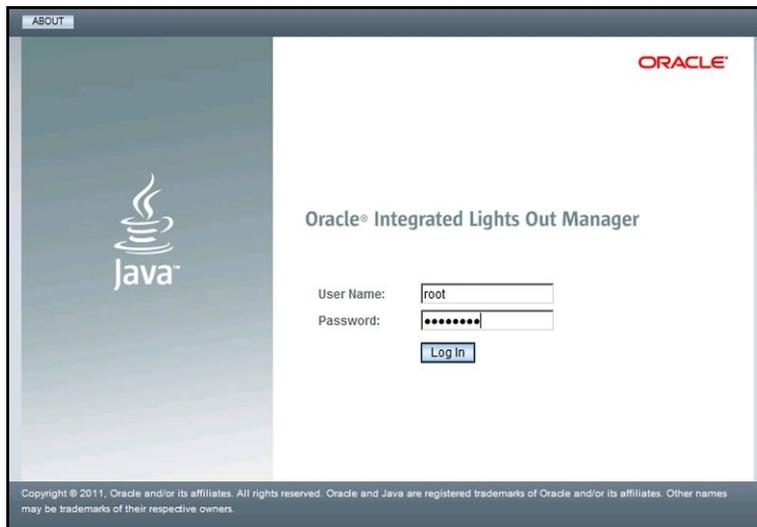


「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

- 3 「Add Exception」をクリックします。
Oracle ILOM ログイン画面が表示されます。



- 4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

System Information

Summary

View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information	
Model	--
Serial Number	--
System Type	--
System Identifier	--
System Firmware Version	--
Primary Operating System	--
Host Primary MAC Address	--
Blade Slot	--
ILOM Address	--
ILOM MAC Address	--

Actions	
Power State	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="button" value="Turn Off"/>
Locator Indicator	<input checked="" type="checkbox"/> OFF <input type="button" value="Turn On"/>
Oracle System Assistant Version:	<input type="button" value="Launch"/>
System Firmware Update	<input type="button" value="Update"/>
Remote Console	<input type="button" value="Launch"/>

Status			
Overall Status:		<input checked="" type="checkbox"/> Service Required	Total Problem Count: 2
Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

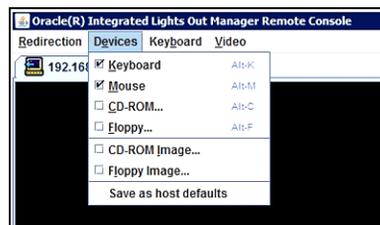
5 「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



6 「Open」をクリックします。

「Remote Console」画面が表示されます。



7 「Devices」メニューから、選択した配布方法に従って1つのCDアイテムを選択します。

- **CD-ROM リモート。** リモートコンソールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。

- **CD-ROM** イメージ。リモートコンソールシステム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

- 次の手順
- 17 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」
 - 24 ページの「BIOS の設定」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています：

- 24 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」
- 25 ページの「BIOS モードの設定」

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意-この手順では、BIOS の設定をデフォルト値に戻し、これまでのカスタマイズ内容をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細については、19 ページの「インストール方法のセットアップ」を参照してください。
- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
 - 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** を押します。

- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** を押します。

次の手順 25 ページの「BIOS モードの設定」

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、レガシー BIOS のみをサポートしているものもあります。これらは、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです:

- OS がレガシー BIOS だけをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
- OS がレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティのメイン画面が表示されます。
- 3 BIOS 設定ユーティリティで、左右の矢印キーを使用して「Boot」画面に移動します。
「Boot Menu」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「Legacy BIOS」を選択します。
- 6 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** を押します。

次の手順 27 ページの「オペレーティングシステムのインストール」

オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、OS のインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1	「OS のインストールの準備」セクションをすでに確認済みである必要があります。	17 ページの「OS のインストールの準備」
2	必要に応じて、論理および物理ネットワーク名を取得します。	27 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
3	選択した方法を使用して OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">■ 31 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」■ 35 ページの「Linux OS の手動によるインストール」
5	サーバーツールおよびドライバを更新します。	40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」
4	OS を新しいバージョンに更新します。	43 ページの「Linux OS の新しいバージョンへの更新」

Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定しなければならない場合があります。

このセクションでは、次の状況で、必要な論理情報を取得する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 28 ページの「Oracle Linux または RHEL インストール時の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
- 29 ページの「SLES インストール時の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」

▼ Oracle Linux または RHEL インストール時の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

Oracle または Red Hat Enterprise Linux OS のインストール時および構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力しなければならない箇所があります。

このセクションでは、Linux 構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

- 1 ブートプロンプトで、**linux rescue** と入力し、**Enter** を押します。
「Choose a Language」画面が表示されます。
- 2 「Choose a Language」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。
「Keyboard Type」画面が表示されます。
- 3 「Keyboard Type」画面で、適切な構成を選択してから「OK」をクリックします。
「Setup Network」画面が表示されます。
- 4 「Setup Network」画面で、「No」をクリックします。
「Rescue」画面が表示されます。
- 5 「Rescue」画面で、「Skip」をクリックします。
ユーザーシェルが表示されます。
- 6 コマンドプロンプト (#) で、すべてのネットワークインタフェースを表示するために、次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
# ifconfig -a
```

Linux 名前付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

- 7 各ネットワークインタフェースの出力を表示するには、コマンドプロンプトで次を入力してから **Enter** を押します:

```
# ifconfig eth#
```

ここで、*eth#* はインタフェース番号です。たとえば、次のように入力した場合:

```
# ifconfig eth0
```

eth0 の出力が表示されます:

```
Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:0C:A1:F2
inet addr:192.168.2.103 Bcast:192.168.2.255
```

- 最初の列の **eth0** エントリは、**Oracle Linux** 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、**Oracle Linux** または **RHEL** がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
 - 第 2 列 (1 行目) の **HWaddr 00.14.4F.0C:A1:F2** エントリは、ネットワークポートの物理 **MAC** アドレスです。
- 8 あとから参照できるように、論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの **MAC** アドレスを記録します。**Oracle Linux** または **RHEL OS** インストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
 - 9 完了後、次のいずれかを行なって、ユーザーシェルを終了します。
 - **Oracle ILOM** で、「**Remote Control**」->「**Remote Power Control**」->「**Reset**」を選択します。
 - **Oracle ILOM** リモートコンソールの「**Keyboard**」メニューで、「**Ctrl Alt Delete**」を選択します。
 - その他のコンソールでは、**Ctrl-Alt-Delete** を押します。
 - 10 **OS** インストールプログラムを再起動します。

- 次の手順
- [31 ページの「Linux OS のインストール \(Oracle System Assistant\)」](#)
 - [35 ページの「Linux OS の手動によるインストール」](#)

▼ **SLES** インストール時の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

SUSE Linux Enterprise Server OS のインストール時および構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力しなければならない箇所があります。

このセクションでは、SUSE Linux OS 構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

始める前に ラベルから、すべての物理ポートの MAC アドレスを見つけて記録します。

- 1 まだ行っていない場合は、「**Rescue System**」を選択して、**Enter** を押します。
メッセージ `Loading Linux Kernel` が表示され、それに続いて SUSE スプラッシュ画面、「`Choose a Keyboard Map`」画面が表示されます。
- 2 「**Choose a Keyboard Map**」画面で、適切なキーボード構成を選択して、「**OK**」をクリックします。
ユーザーシェルが起動して、「`Rescue Login`」プロンプトが表示されます。
- 3 「**Rescue Login**」プロンプトで、`root` と入力してログインし、**Enter** を押します。
レスキュープロンプトが表示されます。
- 4 レスキュープロンプト(`#`)で、次のコマンドを入力してから **Enter** を押して、すべてのネットワークインタフェース(アクティブおよび非アクティブ)を表示します。

```
# ifconfig -a
```

Linux SUSE の名前付きおよび物理名付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。見つかった各インタフェースについて、次の例のような結果が出力されます:

```
eth0 Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:0C:A1:53
      inet addr:192.168.2.103 Bcast:192.168.2.255 Mask:255.255.0.0
      UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RX packets:23363 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:21798 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:100
      RX bytes:13479541 (12.8 MiB) TX bytes:20262643 (19.3 MiB)
      Interrupt:9

lo    Link encap:Local Loopback
      inet addr:127.0.0.1 Mask:255.0.0.0
      inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
      UP LOOPBACK RUNNING MTU:16436 Metric:1
      RX packets:9814 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:9814 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:0
      RX bytes:3655065 (3.4 MiB) TX bytes:3655065 (3.4 MiB)
```

- 最初の列の `eth0` エントリは、オペレーティングシステムによって割り当てられた Ethernet インタフェースの論理名です。最初の列の `lo` エントリは、ループバックインタフェースです。
- 第2列(1行目)の `HWaddr 00.14.4F.0C:A1:53` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレスです。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

```
# ifconfig eth#
```

ここで、`eth#` はインタフェース番号です。

- 5 あとから参照できるように、**SUSE 論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの MAC アドレス**を記録します。
Linux SUSE OS インストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
- 6 レスキューシェルを終了するには、次のいずれかを行います：
 - **Oracle ILOM Web インタフェース**で、「**Remote Control**」 > 「**Remote Power Control**」 > 「**Reset**」を選択します。
 - ほかのコンソールのレスキュープロンプト (#)で、**reboot** と入力して **Enter** を押します。
- 7 **SLES インストールプログラム**を再起動します。

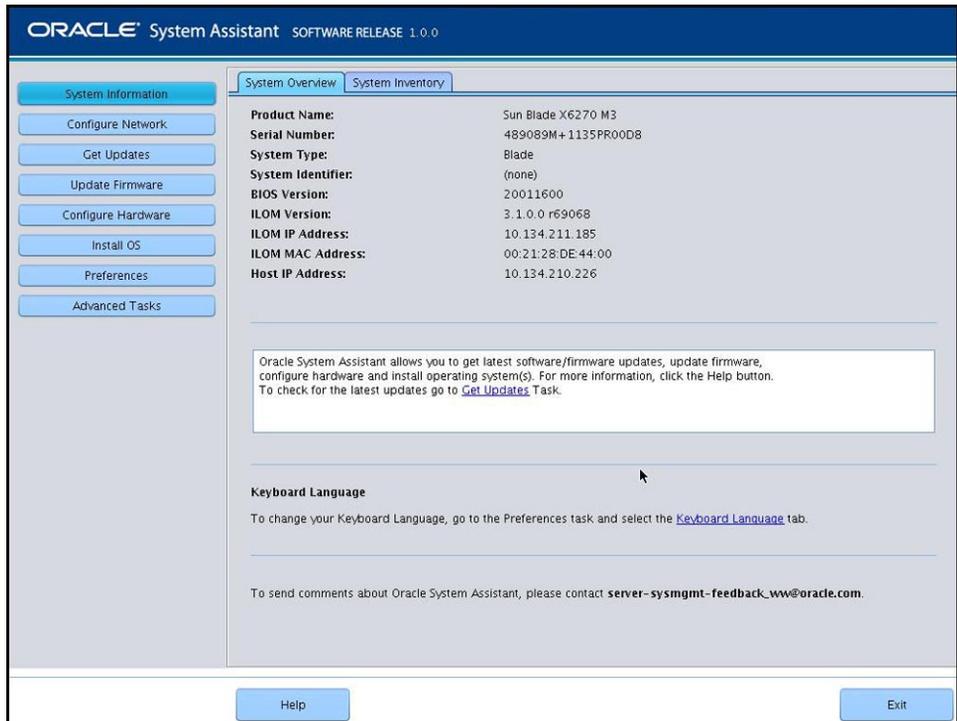
- 次の手順
- 31 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」
 - 35 ページの「Linux OS の手動によるインストール」

▼ Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Linux OS のバージョンの補助付き OS インストールを提供します。

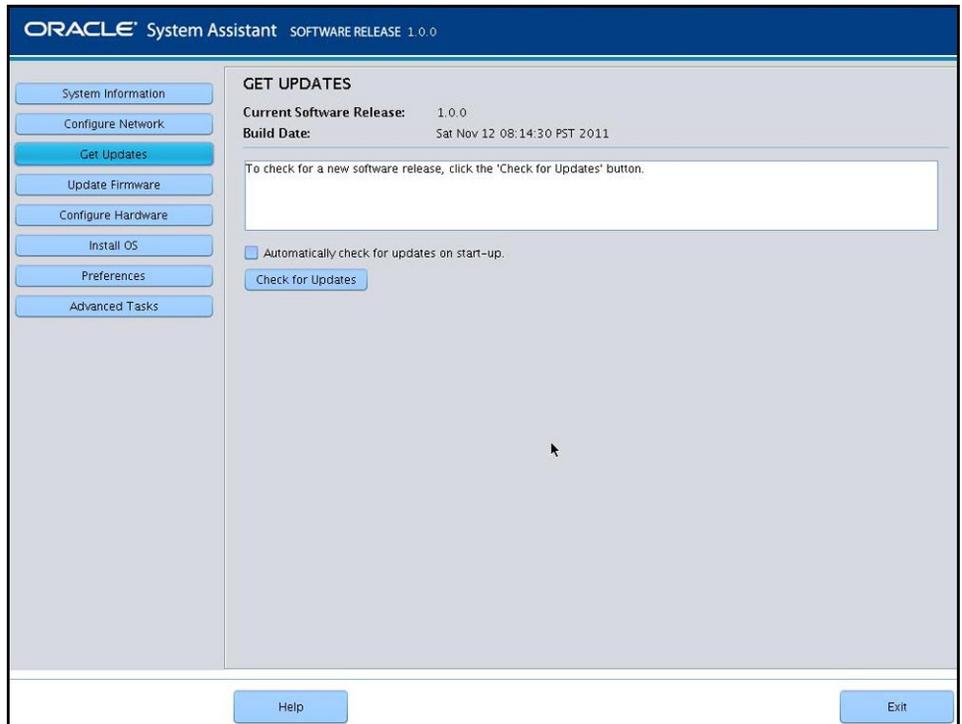
- 始める前に
- サーバストレージドライブを準備します。詳細については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 設置ガイド](#)』を参照してください。
 - 17 ページの「OS のインストールの準備」の手順を実行します。
 - OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定しなければならない場合があります。詳細については、27 ページの「[Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定](#)」を参照してください。
 - ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。
 - リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、CD-ROM を選択していることを確認してください。
 - ISO イメージを使用している場合、リモートコンソールシステムからそのイメージにアクセスできることを確認します。リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM Image」を選択していることを確認してください。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。

- 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面のプロンプトに注目し、**F9**を押すか、または **Oracle System Assistant** に入ります。
- 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。



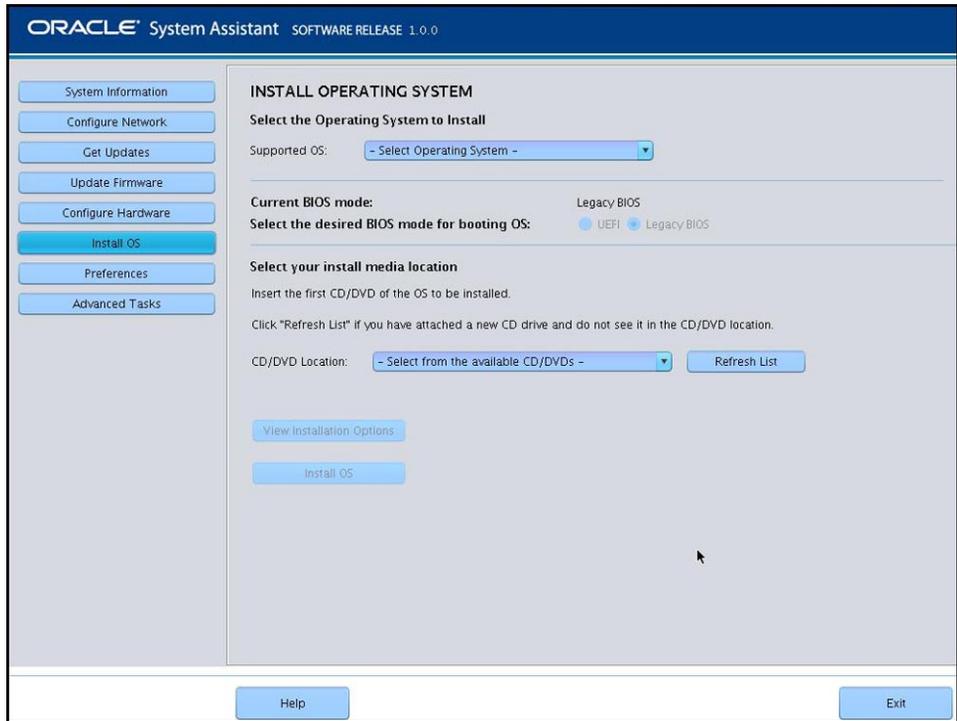
- 4 **Oracle System Assistant** アプリケーションを更新するには、「**Get Updates**」ボタンをクリックします。
この操作により、OS のインストール開始前に、アプリケーションのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。



- 5 サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
この操作により、OSのインストール開始前に、サーバーのファームウェアが確実に最新のものになります。

- OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。



- 「Select Operating System」ドロップダウンリストから、OSを選択します。
- BIOSモードを選択します。詳細については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。
- 「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。
これはOS配布メディアの場所です。CD/DVDドライブを接続した場合は、ドロップダウンリストで表示するために「Refresh」ボタンをクリックしなければならない場合があります。
- デバイスを選択するには、「View Installation Options」をクリックします。
これは、OSがインストールされるデバイスです。



注意-データが失われます。OSのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 11 OSのインストールを開始するには、「Install OS」をクリックします。
- 12 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

次の手順 40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

Linux OS の手動によるインストール

Linux OS をインストールするためのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant アプリケーションを使用することです。詳細については、31 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」を参照してください。

次のセクションの手順を使用して、Oracle System Assistant の補助なしで、Linux OS を手動でインストールします:

- 35 ページの「Oracle Linux の手動によるインストール」
- 37 ページの「SLES の手動によるインストール」
- 38 ページの「RHEL の手動によるインストール」

▼ Oracle Linux の手動によるインストール

この手順を使用して、Oracle System Assistant を使わずに Oracle Linux OS をインストールします。

- 始める前に
- 17 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - このインストールを完了するには、次の Oracle Linux インストールに関する記事が必要です:
 - Oracle Linux 5 の場合は、<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleEnterpriseLinux5Installation.php> にアクセスします。
 - Oracle Linux 6 の場合は、<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleLinux6Installation.php> にアクセスします。
- 1 My Oracle Support から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。50 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。
 - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。フォルダファイルシステム構造については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。
 - 3 Linux 配布 DVD を挿入するか、または ISO イメージ配布メディアにアクセスします。

- 4 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 5 メッセージで選択肢が表示されたら、**F8**を押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます(次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 7 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します:
 - テキストモード:
次のコマンドを入力します: boot: linux text。
 - グラフィカルモード:
ブートプロンプトで Enter を押します。
- 8 インストールを完了するには、この手順の最初に記載されているバージョン固有のインストールに関する記事を参照してください。

注 - Linux とは別のオペレーティングシステム (Oracle Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。そのパーティションに Oracle Linux をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、Oracle Linux を別のパーティションにインストールする必要があります。

次の手順 [40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

▼ SLES の手動によるインストール

- 始める前に
- [17 ページの「OS のインストールの準備」](#) セクションの手順を実行します。
 - ネットワークを使用したサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細については、[27 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」](#) を参照してください。
 - メディアキットに含まれている OEM OS インストールガイドを入手します。
- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。 [50 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」](#) を参照してください。
 - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』を参照してください。
 - 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。
 - 4 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- メッセージで選択肢が表示されたら、**F8**を押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- OEM** インストールガイドの手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。

注 - Linux とは別のオペレーティングシステム (Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されま
す。SLES をこのパーティションにインストールすると、該当の OS が上書きされま
す。パーティションを保持する場合は、SLES を別のパーティションにインストール
する必要があります。

次の手順 40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

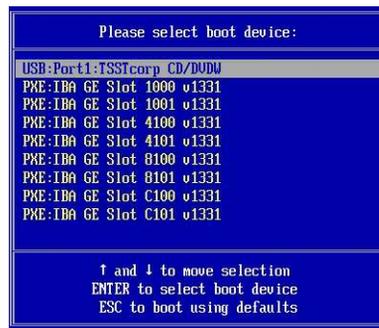
▼ RHEL の手動によるインストール

- 始める前に
- 17 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - ネットワークを使用したサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細については、27 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」を参照してください。
 - メディアキットに含まれている OEM OS インストールガイド。

- 1 My Oracle Support から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。50 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。
- 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造については、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。
- 3 Linux 配布 DVD を挿入するか、または ISO イメージ配布メディアにアクセスします。
- 4 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 5 メッセージで選択肢が表示されたら、F8を押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。

- 7 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します:
 - テキストモードの場合、次のコマンドを入力します:**boot: Linux text**。
 - グラフィカルモードの場合、ブートプロンプトで **Enter** を押します。
- 8 インストールプロセスのこれ以降の手順については、『**RedHat Enterprise Linux Installation Guide**』を参照してください。

注-Linux とは別のオペレーティングシステム (Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。RHEL をこのパーティションにインストールすると、該当の OS が上書きされます。パーティションを保持する場合は、RHEL を別のパーティションにインストールする必要があります。

次の手順 [40 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新

これらの手順では、Oracle System Assistant またはダウンロードした OS 固有のソフトウェアパッケージに含まれているソフトウェアを使用して、サーバーシステムツールにアクセスし、システムドライバを更新する方法について説明します:

- [40 ページの「サーバーシステムツールのインストール」](#)
- [42 ページの「システムドライバの更新またはインストール」](#)

▼ サーバーシステムツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack、LSI MegaRAID Storage Manager、MegaCLI などのサーバーシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Linux OS ソフトウェアパッケージに含まれています。この手順を使用して、ツールをインストールします。

1 次のいずれかを実行します:

■ システムに **Oracle System Assistant** がない場合:

- a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細については、[47 ページ](#)の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

- b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
- c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS Tools** フォルダに移動します:

```
Linux/OS_name/version/Tools/tool
```

ここで、*OS_name* は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) で、*version* は、インストールされた Linux OS のバージョンで、*tool* は、ツール (MSM、MegaCLI、または hmp-tools) です。

■ システムに **Oracle System Assistant** がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM

- b. 次のパス構造を使用して、適切な **Linux OS Tools** フォルダに移動します:

```
Linux/OS_name/version/Tools/tool
```

ここで、*OS_name* は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) で、*version* は、インストールされた Linux OS のバージョンで、*tool* は、ツール (MSM、MegaCLI、または hmp-tools) です。

2 ソフトウェアツールをインストールするには、ツールのディレクトリにある **.txt** ファイルを参照してください。

詳細については、次のドキュメントを参照してください:

- Oracle Hardware Management Pack の場合は、次の Web サイトを参照してください:
<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>
- LSI MSM の場合は、次の Web サイトを参照してください:
http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx

▼ システムドライバの更新またはインストール

Oracle System Assistant は、OS のインストールプロセス中にほとんどのサポートされているドライバをインストールします。OS のインストール後に個々のドライバをインストールまたは更新する、またはすべてのドライバを更新するには、.rpm ファイルまたは Linux OS InstallPack アプリケーションをそれぞれ使用します。InstallPack アプリケーションおよび .rpm ファイルは、USB ドライブ上の Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした OS 固有のソフトウェアパッケージに含まれています。

1 次のいずれかを実行します:

■ システムに Oracle System Assistant がない場合:

- a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
詳細については、[47 ページ](#)の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。
- b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
- c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS InstallPack** フォルダに移動します:

Linux/ OS_name/version/InstallPack

ここで、OS_name は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE))、version は、インストールされた Linux OS のバージョンです。

■ システムに Oracle System Assistant がある場合:

- a. OS から、**Oracle System Assistant USB** デバイスに移動します。
USB デバイスの名前: ORACLE_SSM
- b. 次のパス構造を使用して、適切な **Linux OS** フォルダに移動します:

Linux/OS_name/ version

ここで、OS_name は、インストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE))、version は、インストールされた Linux OS のバージョンです。

2 次のいずれかを実行します:

- すべてのサポートされているドライバを更新またはインストールするには、**InstallPack** ディレクトリに移動し、**InstallPack.py** ファイルを実行します。
Linux/OS_name/ version/InstallPack
InstallPack アプリケーションの指示に従い、ドライバの更新を完了します。
- その他のドライバを更新またはインストールするには、ドライバディレクトリに移動し、**.rpm** ファイルをダブルクリックします。
Linux/OS_name/version /Drivers/driver ここで、ドライバは、ドライバを含むディレクトリ名です。

Linux OS の新しいバージョンへの更新

次のセクションの手順を使用して、Linux OS を新しいバージョンに更新します:

- 43 ページの「Oracle Linux オペレーティングシステムバージョンの更新」
- 44 ページの「SLES オペレーティングシステムバージョンの更新」
- 45 ページの「RHEL オペレーティングシステムバージョンの更新」

▼ Oracle Linux オペレーティングシステムバージョンの更新

始める前に サーバーに、Oracle Linux がインストールされている必要があります。

● Oracle Linux オペレーティングシステムの更新方法を選択します:

- **Oracle Unbreakable Linux Network (ULN)** のインストールの場合は、ローカル **yum** リポジトリを作成し、**yum** と **up2date** を構成して、そこから更新パッケージをインストールします。
<http://www.oracle.com/technology/tech/linux/htdocs/yum-repository-setup.html> にアクセスしてください。
- **Unbreakable Linux Network** サポートなしの **Oracle Linux** インストールの場合は、**Oracle Public yum** サーバーと **yum** クライアントを使用して更新をインストールします。
<http://public-yum.oracle.com/> にアクセスしてください。

注 - この yum サーバーの使用には、いかなるサポートも提供されません。エラッタ、セキュリティパッチ、およびその他の更新が必要な場合は、<http://linux.oracle.com/> にある Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) を使用してください。

▼ SLES オペレーティングシステムバージョンの更新

この手順では、YaST を使用して SLES を更新します。

YaST は、テキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

始める前に Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードを取得します。

- 1 スーパーユーザーとしてログインします。
- 2 YaST オンラインアップデートサービスを開きます:

```
# you
```

YaST ユーザーウィンドウが表示されます。
- 3 ネットワークファイアウォールに保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合には、正しいプロキシ情報で YaST を構成します:
 - a. 「Network Services」タブをクリックします。
 - b. 右側に表示されている「Proxy」画面をクリックします。
 - c. HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシ URL を入力します。
 - d. YaST を終了します。
 - e. 次のコマンドを入力します:

```
# rug set-prefs proxy-url proxy URL
```

ここで、*proxy URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です。例:

```
http:// proxy.yourdomain:3128/
```
 - f. YaST を再起動します。

- 4 **Novell Customer Center** に登録するには:
 - a. 「**Software**」 タブをクリックします。
 - b. 「**Novell Customer Center Configuration**」 を選択し、指示に従います。
これには、Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。
- 5 ソフトウェアの更新を実行するには、「**Online Update**」 タブを選択します。

▼ **RHEL オペレーティングシステムバージョンの更新**

始める前に サーバーに、事前に RHEL をインストールしておく必要があります。
サーバーが Web にアクセスできる必要があります。

- 1 **yum** 更新プログラムを実行します。
`# yum`
- 2 質問に答えて選択内容を決定したあと、パッケージをダウンロードしてインストールします。
yum を使用して、システムを定期的に更新する必要があります。
詳細は、マニュアルページを参照してください。次のように入力します:
`# man yum`

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
ファームウェアとソフトウェアのアップデートについて説明します。	47 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアを入手するためのオプションについて学習します。	48 ページの「ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション」
入手可能なファームウェアとソフトウェアのパッケージを示します。	48 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストによって、ファームウェアとソフトウェアのパッケージを入手します。	50 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	54 ページの「アップデートのインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。アップデートはソフトウェアリリースとして公開されます。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む、ダウンロード(パッチ)のセットです。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれている Read Me ドキュメントに、前回のソフトウェアリリースから変更された点と変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれていて、更新によってサーバーモジュールソフトウェアは、最新のシャーシファームウェアおよびその他のシャーシコンポーネントのファームウェアやソフトウェアとの互換性を確保できます。

ダウンロードパッケージ内の Read Me ファイルおよび『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、ダウンロードパッケージ内の更新済みのファイル、および現在のリリースで修正されているバグに関する情報が記載されています。さらに、プロダクトノートには、最新のシャーシのファームウェアでサポートされているサーバーモジュールソフトウェアのバージョンに関する情報も記載されています。

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します:

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされる Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるように支援します。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle ILOM Web インタフェースからの Oracle System Assistant へのアクセス」を参照してください。

- **My Oracle Support** – システムのすべてのファームウェアとソフトウェアは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から入手できます。

My Oracle Support で入手できるものの詳細は、48 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、50 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手できるダウンロード (パッチ) が含まれている DVD をリクエストできます。

詳細は、52 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品種別はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは本当のソフトウェア製品のリリースではなく、サーバー用のアップデートのリリースです。これらのアップデートはソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数

のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティーが含まれます。

My Oracle Support には、次の表に示したとおりの、このサーバーファミリ向けのダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2B SW <i>version</i> – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2B SW <i>version</i> – OS Pack	OS パックは、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS パックには、該当のバージョンの OS 用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティーのパッケージが含まれていません。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティーをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SW <i>version</i> – All packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックに SunVTS または Oracle System Assistant のイメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SW <i>version</i> – Diagnostics	SunVTS 診断イメージ。	SunVTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2B SW <i>version</i> – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant アップデータおよび ISO アップデータイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧またはアップデートする必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、Read Me と、ファームウェアまたはソフトウェアのファイルを含むサブディレクトリのセットが含まれています。Read Me ファイルに

は、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントと、修正済みのバグの詳細が記載されています。これらのダウンロードのディレクトリ構造の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

注 - Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用することもできます。詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

アップデートされたファームウェアとソフトウェアには、ほかにも2つの入手方法があります。

- 50 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 51 ページの「物理メディアをリクエストする」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Blade X3-2B) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード(パッチ)のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[48 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします(複数のパッチを選択できます)。
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 アップデートをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表で、物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクについて説明し、詳細情報のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストを行うために必要な情報を収集します。	51 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインで、または Oracle サポートに電話することで、物理メディアをリクエストします。	52 ページの「物理メディアのリクエスト(オンライン)」 53 ページの「物理メディアのリクエスト(電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します:

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必要なパッチを把握します。最新のソフトウェアリリースと、リクエストするダウンロードパッケージ(パッチ)の名前がわかっていると、より簡単にリクエストを行うことができます。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 50 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあとに、ダウンロード手順を続けない場合は、「パッチ検索結果」ページから移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 48 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 送付先情報を用意します。リクエストのためには、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所を提供する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、51 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスして、サインインします。
- 2 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 3 「リクエストの説明」セクションで、次を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンリストから、次を選択します:
物理メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します:
Sun Blade Sun Blade X3-2B の最新ソフトウェアリリースの **PMR**
- 4 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか?	はい
どの製品ラインに関するメディアのリクエストですか?	Sun 製品

質問	回答
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力します。
リクエストする製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Blade X3-2B バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- 5 送付先の担当者、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所の情報を入力します。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「関連ファイル」の下に **Knowledge Article 1361144.1** と入力します
- 8 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、51 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載されている情報を収集します。

- 1 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある適切な番号を使用して、Oracle サポートに電話します:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Blade X3-2B** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を Oracle サポートに伝えます。
 - **My Oracle Support** から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Blade X3-2B**の最新のソフトウェアリリースをリクエストしてください。

アップデートのインストール

以降のトピックでは、ファームウェアとソフトウェアのアップデートのインストールに関する情報を提供します:

- [54 ページの「ファームウェアをインストールする」](#)
- [55 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアをインストールする

更新されたファームウェアは、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant では、Oracle の最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。
詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「[サーバー構成のための Oracle System Assistant の使用](#)」を参照してください。
- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内のファームウェアを更新できます。
詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースおよび Oracle ILOM CLI を使用して更新できる唯一のファームウェアです。
詳細については、次にアクセスしてください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

更新されたハードウェアドライバとオペレーティングシステム (OS) 関連のツール (Oracle Hardware Management Pack など) は、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** - 詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** - 詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle System Assistant によるサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、Kickstart、またはサードパーティー製ツールなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、使用している OS のドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

- 最適なデフォルトのロード
 - Linux, 24–25
- ブートモード、設定 (Linux), 25

L

Legacy BIOS

- ブートモード
 - Linux, 25

O

Oracle ILOM

- リモートコンソールアプリケーション
 - Linux, 20–24

Oracle Linux

- バージョンの更新, 43–44
- メディアキット, 18
- 論理および物理インタフェース名、特
定, 28–29

Oracle System Assistant

- Linux, 14
- OS インストール (Linux), 31–35
- OS のインストール, Linux, 11–15

R

Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

- バージョンの更新, 45
- メディアキット, 18
- 論理および物理インタフェース名、特
定, 28–29

S

SUSE Linux Enterprise Server (SLES)

- バージョンの更新, 44–45
- メディアキット, 18
- 論理および物理インタフェース名、特
定, 29–31

U

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) BIOS

- ブートモード
 - Linux, 25

い

インストール

- ツールおよびドライバ
 - Linux, 40
- リモートセットアップ (Linux), 20–24
- ローカルセットアップ (Linux), 19

お

オペレーティングシステム
サポートされているバージョン
Linux, 12
バージョンの更新, 43

こ

更新
OSバージョン, 43
最新情報
Linux, 12

さ

最適なデフォルト
ロード
Linux, 24-25
サポート対象
オペレーティングシステム
Linux, 12

し

手動による OS インストール, Linux, 14
手動による OS インストール (Oracle Linux), 35-37
手動による OS インストール (RHEL), 38-40
手動による OS インストール (SLES), 37-38

せ

設定
BIOS ブートモード
Linux, 25

そ

ソフトウェアおよびハードウェア
情報
Linux, 12

つ

ツールおよびドライバ
インストール
Linux, 40

と

ドキュメント
最新版の取得
Linux, 12

は

ハードウェアおよびソフトウェア
情報
Linux, 12

ふ

ファームウェア
更新情報
Linux, 12
プロダクトノートドキュメント, Linux, 12

ほ

補助付き OS インストール
Linux, 14, 31-35

め

メディアキット、OS のインストール, 17

り

リモートインストール、セットアップ
(Linux), 20-24

ろ

ローカルインストール, セットアップ (Linux), 19

